

2021 年度 個人研究実績・成果報告書

2022 年 4 月 19 日

所属	商経学部	職名	専任講師	氏名	伊藤泰生
研究課題	大規模自然災害が企業の探索的・活用的行動に与える影響に関する実証分析				
研究キーワード	多角化、企業の行動理論、両利きの経営	当年度計画に対する達成度	3.概ね順調に研究が進展し、一定の成果を達成したが、一部に遅れ等が発生した		
関連するSDGs項目	13. 気候変動に具体的な対策を	該当なし	該当なし	該当なし	

1. 研究成果の概要

本年度の研究はおおむね順調に進み論文のレビューやデータの収集を行ったが、データ分析や論文の執筆に遅れが生じたため当該年度内に学会発表・論文執筆などを実施することはかなわなかった。ただし、2021 年度に研究した内容は現在論文にまとめている最中であり、2022 年度中に千葉商大論叢に投稿予定である。

2. 著書・論文・学会発表等（査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）

【論文（査読なし）】

産業内多角化と IPO の関係性に人的資源が与える影響—情報サービス産業における実証分析—、伊藤泰生、単著、千葉商大論叢、59(1)、123-134、2021 年 7 月

3. 主な経費

主にデータ分析のためのデータ購入や分析のための PC の購入に経費を使用した。また研究に関わる書籍の購入などにも使用した。

4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

【科学研究費】

基盤研究（C）：2022 年度～2025 年度、代表、「大規模自然災害が企業の探索的行動に与える影響—東日本大震災前後における実証分析—」（22K01680）に採択された。